

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	2
3 用語及び定義	3
4 一般要求事項	5
5 試験のための一般条件	5
6 分類	5
7 表示, 及び取扱説明又は据付説明	6
8 充電部への接近に対する保護	7
9 モータ駆動機器の始動	7
10 入力及び電流	8
11 温度上昇	8
12 金属イオン系バッテリーの充電	9
13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧	9
14 過渡過電圧	9
15 耐湿性等	9
16 漏えい電流及び耐電圧	10
17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護	10
18 耐久性	10
19 異常下における動作	10
20 安定性及び機械的危険	11
21 機械的強度	12
22 構造	13
23 内部配線	16
24 部品	16
25 電源接続及び外部可とうコード	17
26 外部導体接続端子	17
27 接地の手段	17
28 ねじ及び接続	17
29 空間距離, 沿面距離及び固体絶縁	17
30 耐熱性及び耐火性	18
31 耐腐食性	18
32 放射, 毒性及びこれらと類似の危険性	19

	ページ
附属書.....	22
附属書 B（規定）バッテリー駆動機器並びにバッテリー駆動機器に用いる分離接続形バッテリー及び 着脱充電式バッテリー .....	22
附属書 R（規定）ソフトウェア評価 .....	22
参考文献.....	22
附属書 JAA（参考）JIS と対応国際規格との対比表 .....	23

## まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本レストルーム工業会（JSEIA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS C 9335-2-84:2023** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

**JIS C 9335** 規格群（家庭用及びこれに類する電気機器の安全性）には、約 100 規格に及ぶ部編成があるが、この規格では省略した。

なお、全ての部編成は、**JIS C 9335-1:2023** の“まえがき”に記載されている。



# 家庭用及びこれに類する電気機器の安全性— 第 2-84 部：トイレ機器の個別要求事項

## Household and similar electrical appliances—Safety— Part 2-84: Particular requirements for toilet appliances

### 序文

この規格は、2019 年に第 3 版として発行された **IEC 60335-2-84** を基とし、主に我が国の配電事情を考慮し、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JAA** に示す。

この規格は、**JIS C 9335-1** の最新版（追補を含む。）と併読する規格である。ただし、併読しようとする **JIS C9335-1** の版において、併読することを除外する旨の記載がされており、それに該当する場合は、その除外に該当しない最も新しい版を適用することとなる。この規格のこの版は、**JIS C9335-1:2023** に対応している。このため、この規格の発効以降に発効された **JIS C9335-1** を引用する場合は、その引用項目又は引用箇所が異なる場合があることに注意する。

この規格の箇条などの番号は、**JIS C 9335-1:2023** と対応している。**JIS C 9335-1:2023** に対する変更は、次の表現を用いた。

- “**置換**” は、**JIS C 9335-1:2023** の該当する箇所の要求事項を、この規格の規定に置き換えることを意味する。
- “**追加**” は、**JIS C 9335-1:2023** の該当する箇所の要求事項に、この規格の規定を追加することを意味する。

変更する箇所に関する情報が必要な場合には、これらの表現に続く括弧書きで示す。

**JIS C 9335-1:2023** に追加する細分箇条番号は、**JIS C 9335-1:2023** の箇条番号の後に“**101**”からの番号を付け、図番号及び表番号は、“**101**”からの連続番号を付ける。

### 1 適用範囲

#### 置換（箇条 1 全て）

この規格は、定格電圧が 250 V 以下の、人体の部分的な洗浄若しくは乾燥を行うことによって又は排せつ物を衛生的に処理することによって、トイレの使用者に快適感又は清潔感を与えることを目的としたトイレ機器（以下、トイレ機器という。）の安全性について規定する。

**注記 1** 次のようなトイレ機器は、この規格の適用範囲に含まれる。

- － 温水洗浄便座
- － 暖房便座
- － 温水洗浄便座のための温水ヒータ
- － ポンプ装置
- － 自動便座カバー装置
- － モールダリングトイレ
- － パッケージトイレ
- － フリージングトイレ
- － バキュームトイレ
- － 粉碎装置
- － 介護用トイレ

この規格では、住居の中及び周囲で、トイレ機器に起因して人が遭遇する共通的な危険性を、可能な限り取り扱う。ただし、通常、幼児がトイレ機器で遊ぶ場合については、規定していない。

**注記 2** この規格の適用に際しては、次のことに注意する。

- － 車両、船舶又は航空機搭載用トイレ機器には、要求事項の追加が必要になる場合がある。
- － 厚生関係機関、労働安全所管機関、水道当局、その他の当局によって、追加要求事項を規定する場合がある。

**注記 3** この規格は、次のものへの適用は意図していない。

- － 腐食しやすい場所又は爆発性の雰囲気（じんあい、蒸気又はガス）が存在するような特殊な状況にある場所で用いる機器
- － ケミカルトイレ
- － 燃焼によって排せつ物を処理する機器

**注記 4** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

**IEC 60335-2-84:2019**, Household and similar electrical appliances—Safety—Part 2-84: Particular requirements for toilet appliances (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

## 2 引用規格

この規格で用いる引用規格は、次を除き、**JIS C 9335-1:2023**の箇条 2 による。

### 追加

**JIS C 5381-331** 低圧サージ防護デバイス用金属酸化物バリスタ (MOV) の試験方法

**JIS C 9335-1:2023** 家庭用及びこれに類する電気機器の安全性—第 1 部：通則

**JIS C 60068-2-52:2000** 環境試験方法—電気・電子—塩水噴霧（サイクル）試験方法（塩化ナトリウム水溶液）

**注記** 対応国際規格における引用規格: IEC 60068-2-52:1996, Environmental testing—Part 2-52: Tests—Test Kb: Salt mist, cyclic (sodium, chloride solution)

**IEC 61051-2, Varistors for use in electronic equipment—Part 2: Sectional specification for surge suppression varistors**

### 3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 3 による。

#### 3.1.9 置換 (3.1.9 全て)

##### 通常動作 (normal operation)

次の状態の下で、トイレ機器を運転したときの状態。

通常、連続運転を意図するトイレ機器は、人が離れた状態で連続運転する。連続運転を意図しないトイレ機器は、各サイクルが 10 分間となるように運転する。便器の蓋は、開いているか、又は閉じているかのいずれか条件の厳しい方で行う。

連続する 1 サイクルの時間は、連続運転するトイレ機器を除き、動作が自動的に終了しない場合、トイレ機器は 15 秒間又は取扱説明書に指定する時間のいずれか長い時間運転する。ただし、温水洗浄便座については、次による。

- 動作が自動的に終了する場合、トイレ機器は 30 秒間又は自動操作時間のいずれか短い時間運転する。動作が自動的に終了しない場合、トイレ機器は 30 秒間運転する。
- 乾燥のために暖気が提供され、動作が自動的に終了する場合、トイレ機器は 1 分間又は自動的に終了する時間のいずれか短い時間運転する。動作が自動的に終了しない場合、1 分間運転する。
- 乾燥のために暖気が提供される場合には、順序が自動的にない限り、乾燥動作は、洗浄動作の直後に運転する。

詳細は、次の表による。

自動終了 機能の有無	連続運転又は 非連続運転	動作時間	1 サイ クルの 時間	繰り返し (11.7)	トイレ機器及び機能 の例
自動的に終 了しないも の	連続運転を意 図したもの	連続	連続	なし (定常状態に達す るまで)	暖房便座, 温水器
	連続運転を意 図しないもの	温水洗浄便座以外: 15 秒以上	10 分間	各サイクルの最初に 左記の動作を開始す る。 20 回以下	モールドリングトイ レなど
		温水洗浄便座 (乾燥なし の場合): 30 秒			洗浄
		温水洗浄便座 (乾燥あり の場合): 洗浄 30 秒+乾 燥 1 分			洗浄及び乾燥
自動的に終 了するもの	連続運転を意 図しないもの	温水洗浄便座以外: 自動で終了するまで	10 分間	各サイクルの最初に 左記の動作を開始す	モールドリングトイ レなど

		温水洗浄便座（乾燥なしの場合）：30 秒以下		る。 20 回以下	洗浄
		温水洗浄便座（乾燥ありの場合）：洗浄 30 秒以下及び乾燥 1 分以下			洗浄及び乾燥

モールドリングトイレは、排せつ物タンクを、空又は泥炭で満たすかのいずれか条件の厳しい方で運転する。

パッケージトイレには、袋を取り付けて運転する。

フリージングトイレは、調整器を最も低い温度に設定し、サイクルごとに 37℃の水 0.3 L を追加して運転する。水なしの運転も行う。

温水洗浄便座は、スプレーが有効、かつ、製品の仕様において消費電力が最大となる最も条件の厳しい圧力で水を供給して運転する。

**注記** 消費電力が最大となる条件の事例は以下のとおり。

環境条件：給水压最大、給水温度最小

設定条件：吐水量（水勢）最大、吐水温度最大、吐水時に起動可能な機能はすべて動作させる

なお、環境条件においては、消費電力が最大となる条件での動作を模擬することを意図した信号を機器へ入力してもよい。

### 3.5 機器のタイプに関する定義

#### 3.5.101

##### モールドリングトイレ（mouldering toilet）

排せつ物を乾燥によって処理するトイレ機器

#### 3.5.102

##### パッケージトイレ（package toilet）

排せつ物を袋に詰めてタンクに蓄積するトイレ機器

#### 3.5.103

##### フリージングトイレ（freezing toilet）

排せつ物を冷凍しタンクに蓄積するトイレ機器

#### 3.5.104

##### バキュームトイレ（vacuum toilet）

排せつ物を負圧によって蓄積タンクに収容するトイレ機器



### 3.5.105

#### 温水洗浄便座 (spray seat)

人体を部分的に洗浄するために、水を放出するトイレ機器

**注記 1** 温水洗浄便座には、便座の暖房、便座及び便器の蓋の自動開閉、人体の乾燥、脱臭などの機能を備えることができる。

**注記 2** 温水洗浄便座は、便器と一体のものもある。

#### 追加

### 3.5.105A

#### 介護用トイレ

主に介護用などの目的で、ベッドのそばで用いる移動可能なトイレ機器

### 3.5.105B

#### 暖房便座

便座にヒータを組み込んだトイレ機器

## 4 一般要求事項

一般要求事項は、JIS C 9335-1:2023 の箇条 4 による。

## 5 試験のための一般条件

試験のための一般条件は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 5 による。

**5.2** (対応国際規格のこの細分簡条は、適用せず、JIS C 9335-1:2023 の 5.2 を適用する。)

**5.3** (対応国際規格のこの細分簡条は、適用せず、JIS C 9335-1:2023 の 5.3 を適用する。)

**5.7 追加** (“ある部分の到達温度” で始まる段落の後に、次を追加する。)

試験に用いる水の温度は、15 °C ± 5 °C とする。

## 6 分類

分類は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 6 による。

### 6.1 置換 (6.1 全て)

トイレ機器は、感電に対する保護に関し、次のクラスのいずれかでなければならない。

裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだトイレ機器は、クラス I 又はクラス III でなければならない。

その他のトイレ機器は、クラス 0I、クラス I、クラス II 又はクラス III でなければならない。

適否は、目視検査及び関連する試験によって判定する。

**注記 101A** 対応国際規格では、修正 (Modification) としているが、規格の利便性を考慮し、この規格では、置換とした。

## 6.2 追加 (“適否は、目視検査” で始まる段落の前に、次を追加する。)

トイレ機器は、IPX4 以上でなければならない。ただし、浴室のような水にさらされる場所への設置を意図していないトイレ機器は、IPX3 以上とする。

## 7 表示、及び取扱説明又は据付説明

表示、及び取扱説明又は据付説明は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 7 による。

### 7.12 追加 (“使用者による保守の際に” で始まる段落の後に、次を追加する。)

便器をもつトイレ機器の取扱説明書には、安全に便器を空にし、洗浄する方法を記載しなければならない。便器をもつトイレ機器の取扱説明書には、便器を下水システムに接続している場合を除き、排せつ物及び／又はその残留物の最終処分についての詳細を記載しなければならない。

**置換** (“取扱説明書には、次の趣旨を” で始まる段落及び二つの細別を、次に置き換える。)

“この機器は、安全に責任を負う人の監視又は指示がない限り、補助を必要とする人 (子供を含む。) が単独で機器を用いることを意図していない。この機器で遊ぶことがないように、子供を監視することが望ましい。” 旨を取扱説明書に記載する要求は適用しない。

**注記 101A** 6.1 の注記 101A と同じ。

### 追加 (“着脱可能な電源部分” で始まる段落の前に、次を追加する。)

温水洗浄便座及び暖房便座の取扱説明書には、次の趣旨を記載しなければならない。

“幼児又は病弱者がこの機器を使用する場合は、近くに監視者が必要である。”

#### 7.12.1 追加 (“適否は、目視検査” で始まる段落の前に、次を追加する。)

クラス 0I トイレ機器及び固定配線に恒久的に接続することを意図したクラス I トイレ機器の設置説明書及び／又は取扱説明書には、“感電の危険があるため、トイレ機器を接地しなければならない” 旨を記載しなければならない。

裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだトイレ機器の設置説明書には、次の事項を記載しなければならない。

- 水源の抵抗率は、 $\cdots \Omega \cdot \text{cm}$  未満であってはならない (“ $\cdots$ ” には製造業者が、指定する抵抗率の下限値を表記する。)

ー トイレ機器は、固定配線に恒久的に接続しなければならない。

水洗式便器に使用するトイレ機器を除き、設置説明書には、火のついているたばこに関するラベル(7.101 参照)を、便器のそばの目立つ位置に貼る旨を記載しなければならない。

浴室のような水にさらされる場所に設置することを意図していないトイレ機器は、設置説明書にその旨を記載しなければならない。

**7.15 追加** (“7.1～7.5に規定する”で始まる段落の後に、次を追加する。)

温水洗浄便座及び暖房便座の取扱説明書に記載している便座の蓋、便座、本体などは、主要部とする。

## 追加

**7.101** 水洗式便器に使用するトイレ機器を除き、火のついているたばこ、その他の燃えているものなどを便器に投げ入れてはならない旨を記載したラベルを、備えなければならない。

このラベルは、恒久的な固定に適したものでなければならない。

このラベルは、トイレ機器を使用する前に見える場合、トイレ機器に固定してもよい。

**注記** (対応国際規格の注記の内容は、規定であることから、本文の第3段落に移した。)

適否は、目視検査によって判定する。

**7.101A 15.3**に適合する場合を除き、ピーク電圧が600 Vを超える温水洗浄便座の充電部には、充電部の近傍又は外郭の見やすい箇所に高圧のため注意する旨を表示しなければならない。

適否は、目視検査によって判定する。

## 8 充電部への接近に対する保護

充電部への接近に対する保護は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 8 による。

**8.1.1 追加** (“機器を全ての可能な位置”で始まる段落の後に、次を追加する。)

JIS C 0922 の検査プローブ 18.を適用した箇所には、検査プローブ 19.も適用する。

**8.2 追加** (“埋込形機器及び”で始まる段落の後に、次を追加する。)

JIS C 0922 の検査プローブ 18.を適用した箇所には、検査プローブ 19.も適用する。

## 9 モータ駆動機器の始動

モータ駆動機器の始動は、この規格では規定しない。

## 10 入力及び電流

入力及び電流は、JIS C 9335-1:2023 の箇条 10 による。

## 11 温度上昇

温度上昇は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 11 による。

### 11.3 追加（“試験枠の壁、天井及び” で始まる段落の後に、次を追加する。）

温風の温度上昇の測定にも、黒く塗った小形円板に取り付けた熱電対を使用する。

外部可触表面が適切に平らで、触れることが可能な場合は、表面の温度上昇の測定に図 102 の測定用プローブを用いる。測定用プローブと測定表面との間の接触が可能な限り最良となるように、測定用プローブを  $4N \pm 1N$  の力で当てる。測定は、接触させてから 30 秒後に行う。

測定用プローブは、試験用スタンド又はこれと類似の装置で所定の位置に保持してもよい。この測定用プローブと同じ結果となる測定装置を用いてもよい。

### 11.7 置換（“機器は、通常使用状態のうちの” で始まる細別を、次に置き換える。）

トイレ機器は、通常動作で運転したとき、定常状態が確立するまで運転する。ただし、連続運転しないトイレ機器又は機能の場合は、20 サイクル運転する。

### 11.8 追加（“モータ巻線の温度上昇値が” で始まる段落の後に、次を追加する。）

温度上昇は、表 101 に規定する値を超えてはならない。

表 101—最大通常温度上昇値

単位 K	
箇所	温度上昇値
肌に直接触れるおそれのある表面	23 <sup>a)</sup>
人体の部分を乾燥するための温風	40 <sup>a)</sup>
便座から 250 mm 以内に位置する便器の外側の表面	30
モールドリングトイレの排せつ物タンクの内部	60
排せつ物が通過するダクト	60
注 <sup>a)</sup> 空気の温度は、空気の吹出し口から 50 mm 離れたところで測定する。 温水洗浄便座及び暖房便座にあっては、温風温度の規定値は、65 °C 以下とする。 <sup>a)</sup> 温度制御されている温水洗浄便座及び暖房便座の表面温度の規定値は、48 °C 以下とする。	

温水洗浄便座から供給される水の温度は、45 °C を超えてはならない。

注記 101 ハンドル、ノブ、グリップ、キーボード、キーパッドおよび同様の部品の温度上昇値は JIS C9335-1:2023 の 11.8 の表 3 に規定されている。

## 12 金属イオン系バッテリーの充電

金属イオン系のバッテリーの充電は、JIS C 9335-1:2023 の簡条 12 による。

## 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧

動作温度での漏えい電流及び耐電圧は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の簡条 13 による。

### 13.2 追加（注記の後に、次を追加する。）

電熱素子をもつ温水ヒータの試験は、次による。

- 導電性のある液体を通して人体に接触する部分が、直接接地していない一層の絶縁からなる温水ヒータを組み込んだクラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器は、 $500\ \Omega\cdot\text{cm}$  の抵抗率の水で試験する。
- 裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだトイレ機器は、取扱説明書に記載した抵抗率をもつ水で試験する。

適切な抵抗率は、水にりん酸アンモニウムを加えることで得てもよい。

**注記 101A** （対応国際規格の注記の内容は、規定であることから、追加した本文の二つの細別の後の段落に移した。）

導電性のある液体を通して人体に接触する部分が、直接接地していない一層の絶縁からなる温水ヒータを組み込んだクラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器、並びに裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだクラス I トイレ機器の場合、漏えい電流は、温水洗浄便座の散水端から 10 mm の位置に置いた金属性のふると接地端子との間で測定する。電熱素子の端子は、図 101 に示す切替スイッチを介して、交互に電源の各相に接続する。

漏えい電流は、0.25 mA を超えてはならない。

## 14 過渡過電圧

過渡過電圧は、JIS C 9335-1:2023 の簡条 14 による。

## 15 耐湿性等

耐湿性等は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の簡条 15 による。

### 15.1.1 追加（“充電部をもち、かつ、機器を” で始まる段落の後に、次を追加する。）

便器の内部を試験するために、JIS C 0920 の 14.2.4 b) に規定する散水ノズルの使用が必要になる場合がある。

**15.3 追加**（“次に、機器は、”で始まる段落の後に、次を追加する。）

さらに、**7.101A**に規定する表示がない場合は、ピーク電圧が600 Vを超える充電部と金属はく（箔）で覆ったモルディング又はポッティングとの間に、**16.3**の基礎絶縁に対する耐電圧試験を実施したとき、これに耐えなければならない。

**16 漏えい電流及び耐電圧**

漏えい電流及び耐電圧は、次を除き、**JIS C 9335-1:2023**の簡条**16**による。

**16.2 追加**（“漏えい電流の測定”で始まる段落の後に、次を追加する。）

電熱素子をもつ温水ヒータの試験は、次による。

- 導電性のある液体を通して人体に接触する部分が、直接接地していない一層の絶縁からなる温水ヒータを組み込んだクラスOIトイレ機器及びクラスIトイレ機器は、 $500\ \Omega\cdot\text{cm}$ の抵抗率の水で試験する。
- 裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだトイレ機器は、取扱説明書に記載した抵抗率をもつ水で試験する。

**17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護**

変圧器及びその関連回路の過負荷保護は、**JIS C 9335-1:2023**の簡条**17**による。

**18 耐久性**

耐久性は、この規格では規定しない。

**19 異常下における動作**

異常下における動作は、次を除き、**JIS C 9335-1:2023**の簡条**19**による。

**19.1 追加**（“電圧切換スイッチを内蔵した”で始まる段落の後に、次を追加する。）

自動制御装置を組み込んでいるトイレ機器は、**19.101**の試験も行う。

**19.2 追加**（**注記**の前に、次を追加する。）

温水ヒータは、水があるとき、又は水がないときのいずれか条件の厳しい方で試験する。

**19.13 追加**（“試験中に、炎、熔融金属”で始まる段落の後に、次を追加する。）

温度上昇は、**表 102**に規定する値を超えてはならない。

表 102—異常時における温度上昇許容値

単位 K	
箇所	温度上昇値
肌に直接触れるおそれのある表面	
— 金属	36 <sup>aa)</sup>
— その他の材料	55 <sup>aa)</sup>
人体の部分を乾燥するための温風	65 <sup>a)</sup>
便座から 250 mm 以内に位置する便器の外側の表面	40
モールドリングトイレの排せつ物タンクの内部	100
排せつ物が通過するダクト	100
<b>注 a)</b> 空気の温度は、空気の吹出し口から 50 mm 離れたところで測定する。 温水洗浄便座及び暖房便座にあつては、温風温度の規定値は、90 °C 以下とする。	
<b>aa)</b> 温度制御されている温水洗浄便座及び暖房便座は、金属表面温度の規定値は 61 °C 以下、その他の材料表面温度の規定値は 80 °C 以下とする。	

温水洗浄便座から供給する水の温度は、65 °C を超えてはならない。

## 追加

**19.101** トイレ機器に定格電圧で電源を供給し、通常動作で運転する。通常使用において予期されるあらゆる故障条件を、一度に一つずつ適用する。

**注記** 故障条件の例は、次のとおりである。

- 自動温度調節器の故障
- リレーの故障
- 構成部品の開放又は短絡
- プログラム装置のあらゆる位置での停止

## 20 安定性及び機械的危険

安定性及び機械的危険は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 20 による。

### 20.1 追加 (“上記試験を行っている間,” で始まる段落の後に、次を追加する。)

介護用トイレは、次の試験を行ったとき、転倒してはならない。

- aa)** 前脚部を固定装置に当て、便座面の中央前縁から 50 mm の位置に、600 N の力を垂直に加える。次に同じ位置で、前方に 20 N の力を水平に加える。
- bb)** 片側の脚部を固定装置に当て、便座面の中央から片側に 100 mm 寄った位置で、座面の後縁から前方に 175 mm 離れた位置に、250 N の力を垂直に加える。次にひじ掛け部中央に、350 N の力を垂直に加え、同じ位置で、側方に 60 N の力を水平に加える。
- cc)** 後脚部に固定装置を当て、便座面の中央後縁から 175 mm 前方の位置に、600 N の力を垂直に座面に加える。次に背もたれ上端の位置で、後方に 60 N の力を水平に加える。

### 20.2 追加 (“検査プローブが危険な” で始まる段落の後に、次を追加する。)

JIS C 0922 の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用する。

## 21 機械的強度

機械的強度は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 21 による。

### 21.1 追加（“肉眼で見えない亀裂”で始まる段落の後に、次を追加する。）

適否は、21.101 及び 21.102 の試験によっても確認する。

#### 追加

#### 21.101 便座の蓋を開け、均一に分散した 1 500 N の力を便座に垂直に 10 分間加える。

試験は、便座の蓋を閉じて繰り返す。

次に、便座の蓋又は便座の先端へ 150 N の力を、丁番と平行な方向で、右又は左のいずれか不利な方向に 5 秒間加えた後に力を解除し、便座の蓋又は便座をゆっくりと上げ下げする。試験は、5 回実施する。

次に、便座の蓋又は便座を上げ、その先端に 150 N の力をその平面と垂直の方向に、1 分間加える。

便器上に設置した、又は便器と一体になった温水洗浄便座及び暖房便座の場合、力は 150 N とし、便座の蓋を上げる角度は、120° 未満とする。着脱可能な部分に対しては、それが外れた後に更なる力は加えない。

トイレ機器は、ひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがあるとはならない。

適否は、目視検査によって判定する。トイレ機器にひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがある場合、8.1, 15.1, 16.3, 27.5 及び箇条 29 の全て又は一部によって判定する。

#### 21.102 排せつ物タンクを水で完全に満たし、トイレ機器を温度約 -15 °C の中に置く。水が完全に凍結した時点で、トイレ機器を室温に置き、氷が溶けるまで放置する。氷を溶かすために、トイレ機器を温めてもよい。試験は、3 回実施する。

トイレ機器は、ひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがあるとはならない。

適否は、目視検査によって判定する。トイレ機器にひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがある場合、8.1, 15.1, 16.3 及び 27.5 の全て又は一部によって判定する。

#### 21.103 温水洗浄便座及び暖房便座の外郭及び便座は、通常使用中に発生することが予想される繰り返し機械応力に耐える十分な機械的強度をもつ構造でなければならない。

適否は、21.103.1 及び 21.103.2 の試験によって判定する。

#### 21.103.1 厚さ 5 mm、直径 300 mm の鋼製円板の表面に張り付けた、厚さ 10 mm、直径 300 mm 及びショア A 硬度 70 度のゴム製円板によって均一に分散した 1 250 N の力を、便座に垂直に 4 秒間加える。試験は、20 000 回実施する。

トイレ機器は、ひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがあるとはならない。



適否は、目視検査によって判定する。トイレ機器にひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがある場合、**8.1**、**15.1**、**16.3**、**27.5** 及び箇条 **29** の全て又は一部によって判定する。

**21.103.2** 厚さ 19 mm、直径 76 mm 及びショア A 硬度 70 度のゴム製円板によって均一に分散した 890 N の力を、便座の左右の各座面に対し垂直に、0.5 秒間隔で 1 秒間加える。試験は、10 000 回実施する。左右両方に力を加えることによって 1 サイクルとする。

トイレ機器は、ひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがあるてはならない。

適否は、目視検査によって判定する。トイレ機器にひび、割れ、変形などの損傷、又はそのおそれがある場合、**8.1**、**15.1**、**16.3**、**27.5** 及び箇条 **29** の全て又は一部によって判定する。

## 22 構造

構造は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 **22** による。

**22.2 置換**（“機器用インレット”で始まる細別を、次に置き換える。）

ー 機器用インレット。ただし、クラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器を除く。

注記 101A 6.1 の注記 101A と同じ。

**22.6 追加**（“適否は、目視検査”で始まる段落の後に、次を追加する。）

規格に適合するために必要な排水孔は、直径が少なくとも 5 mm 以上、または、面積が 20 mm<sup>2</sup> で幅が 3 mm 以上とする。これらの寸法を満たさない孔は、適合性を判断する際に塞がれているとみなし、塞いで試験をする。

**22.21 追加**（“適否は、目視検査”で始まる段落の前に、次を追加する。）

パラフィンで含浸処理を行った材料は、乾燥した場所で使用する場合に限り、含浸を施してある材料とみなせる。

**追加**（“適否は、目視検査”で始まる段落の後に、次を追加する。）

パラフィンを除くワニス、又は絶縁性樹脂などの適切な絶縁体で十分な含浸処理を行った木材、綿、絹、紙その他これに類する繊維性又は吸湿性がある材料は、a) 及び b) の条件で使用する場合、100 °C で 1 時間乾燥後、室温の水に 1 時間浸した後に表面の水を拭き取った状態でその重量が水に浸す前の 110 % 以下でなければならない。

a) 充電部相互間、及び充電部と非充電金属部との間に密着して使用する場合

b) 外気に触れやすいもの及び高い湿度の下で使用する場合

**22.24 置換**（**22.24** 全て）

トイレ機器は、排せつ物タンク又は温水洗浄便座の温水ヒータに裸の電熱素子を用いてはならない。

適否は、目視検査によって判定する。

**22.33 追加**（“通常使用時に”で始まる段落の後に、次を追加する。）

液体は、裸の電熱素子の充電部と接触してもよく、また、電極を使用して加熱してもよい。ただし、温水洗浄便座の温水ヒータについては、裸の電熱素子をもってはならない。

**注記 101A** 対応国際規格では、修正 (Modification) としているが、規格の利便性を考慮し、この規格では、追加とした。

#### 22.40 追加 (注記の後に、次を追加する。)

**注記 2** 危険を生じさせることなしに、連続的、自動的、又は遠隔的に運転できるトイレ機器の例には、温水洗浄便座、暖房便座、温水洗浄便座のための温水ヒータ、ポンプ装置、自動便座カバー装置、モールドリングトイレ、パッケージトイレ、フリージングトイレ、バキュームトイレがある。

#### 22.49 追加 (注記の後に、次を追加する。)

**注記 2** 温水洗浄便座、暖房便座、温水洗浄便座のための温水ヒータ、ポンプ装置、自動便座カバー装置、モールドリングトイレ、パッケージトイレ、フリージングトイレ、バキュームトイレは、危険を生じさせることなしに連続的に運転できるトイレ機器の例である。

#### 22.51 追加 (注記の後に、次を追加する。)

**注記 2** 危険を生じさせることなしに連続的、自動的、又は遠隔的に動作できるトイレ機器の例には、温水洗浄便座、暖房便座、温水洗浄便座のための温水ヒータ、ポンプ装置、自動便座カバー装置、モールドリングトイレ、パッケージトイレ、フリージングトイレ、バキュームトイレがある。

#### 22.52A 追加 (“適否は、目視検査”で始まる段落の前に、次を追加する。)

ただし、接地端子に接続した、電源電線と同等以上の長さの接地線を備え、かつ、7.12 に規定する接地接続に関する指示を取扱説明書に記載するクラス 0I のトイレ機器には、この要求事項を適用しない。

なお、使用するサージ保護装置に用いるバリスタの部品規格は、JIS C 5381-331 又は IEC 61051-2 とする。

#### 追加

**22.101** トイレ機器は、介護用トイレを除き、固定形でなければならない。

適否は、目視検査によって判定する。

**22.102** トイレ機器は、通常使用において、皮膚と接触し体を支える金属部分が、クラス II 構造でなければならない。この要求事項は、通常使用において、皮膚と接触し体を支える金属部分が接地されており、固定配線に恒久的に接続されている場合、又は 15 mA 以下で動作する漏電遮断機能を持ち、皮膚と接触し体を支える金属部分の基礎絶縁が破壊された場合に漏えい電流が 0.5 mA 以下で自動的に電源を遮断する温水洗浄便座には、適用しない。

適否は、目視検査及び必要に応じて関連試験によって判定する。

**22.103** トイレ機器は、充電部が排せつ物にさらされるのを防ぐような構造でなければならない。

適否は、目視検査、及びラバーシールを用いている場合は、次の試験によって判定する。

ラバーシールを温度  $100\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 2\text{ }^{\circ}\text{C}$  の鉱油に 24 時間浸す。試験の後でシールの体積が、50 % を超えて増加してはならない。

**注記** 鉱油とは、次の特性をもつものである。

- アニリン点  $93\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 3\text{ }^{\circ}\text{C}$
- 粘度  $100\text{ }^{\circ}\text{C}$  で  $(20 \pm 1)\text{ cSt}$
- 引火点  $245\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 6\text{ }^{\circ}\text{C}$

**22.104** バキュームトイレは、便器の蓋が閉められていない場合、水が流れることがないような構造でなければならない。

適否は、手による試験によって判定する。

**22.104A** 内部配線（器体内部にある電源電線などを含む。）などの絶縁物は、2 N の力を絶縁物に加えたとき、次の高温部に接触してはならない。

a) 2 N の力を取り去った後の、JIS C 9335-1:2023 の 11.8 の表 3 に規定する絶縁物の最大通常温度上昇値を超える部分。

**注記** 力を加えなくても常時接触している場合も含まれる。

b) 2 N の力を加えている間だけの、JIS C 9335-1:2023 の 11.8 の表 3 に規定する絶縁物の最大通常温度上昇値に  $40\text{ }^{\circ}\text{C}$  を加えた値を超える部分。

適否は、試験によって判定する。

**22.104B** 赤外線リモコンをもつ温水洗浄便座は、白色蛍光灯又は赤外線ランプの光によって人体洗浄のオンを行ってはならない。

適否は、次の試験によって判定する。a) 及び b) の条件で、光源を連続 2 分間点灯したとき、並びに 1 秒点灯及び 1 秒消灯の操作を 60 回行う。

受光感度が調整可能な赤外線リモコンは最大感度とし、電源電圧は定格電圧の  $\pm 10\%$  とする。

a) 20 W2 灯式白色蛍光灯及び 100 W の赤外線ランプを受光器前面 10 cm の距離に保持したとき。

b) 20 W2 灯式白色蛍光灯を受光面から 10 cm の距離に保持し、赤外線リモコンに使用されている周波数（連続正弦波）で蛍光灯を動作したとき。

ただし、蛍光灯に印加する電圧は、50 Hz 又は 60 Hz の 100 V 電源によって上記の蛍光灯を点灯した場合の輝度とほぼ同じ輝度を発光する電圧とする。

**22.105** 同時に通電される発熱体およびモータの数を制限するプログラマブル電子回路によって制御される機器については、発熱体およびモータのいかなる組み合わせの同時運転も安全でなければならない。

適合性は次のいずれかによって確認する。

- JIS C 9335-1:2023 の表 R.1 に規定する故障／エラー状態を適用し、附属書 R の関連要求事項に従って評価する。
- 機器は、定格電圧で通電し、プログラマブル電子回路がその制御下にある全ての発熱体とモータの同時起動を可能にするように修正されている状態で、箇条 11 の条件下で運転する。

機器は、**19.13** に規定する条件に適合しなければならない。

## 23 内部配線

内部配線は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 **23** による。

### 23.3 追加（注記の前に、次を追加する。）

暖房便座については、50 000 回の屈曲を行う。

注記 101A 22.33 の注記 101A と同じ。

### 23.5 追加（最終段落の後に、次を追加する。）

安全特別低電圧によって、排せつ物を蓄積（貯蔵）するトイレ機器の排せつ物タンクの部品に電源を供給する内部配線は、オーディナリービニルシースコード（コード分類 60227 IEC 53）と同等以上でなければならない。

## 24 部品

部品は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 **24** による。

### 24.1 追加（“部品に対する関連規格”で始まる段落の後に、次を追加する。）

関連規格による漏電保護プラグについても、追加の試験を行わない。

注記 101A “電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈（20130605 商局第 3 号）”は、上記の関連規格と同一である。

## 追加

**24.101** 排せつ物を蓄積（貯蔵）するトイレ機器の場合、**19.4** 又は **19.101** の規定を満たすためトイレ機器に組み込まれている温度過昇防止装置は、自己復帰形であってはならない。ただし、**19.13** に規定する 65℃以下の温度にするための温度過昇防止装置が動作しなくても、**19.13** に規定する 65℃以下の温度にすることができる温度ヒューズと直列に接続されている場合は、自己復帰形でもよい。

適否は、目視検査によって判定する。

## 25 電源接続及び外部可とうコード

電源接続及び外部可とうコードは、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 **25** による。

### 25.3 追加（“適否は、目視検査”で始まる段落の前に、次を追加する。）

裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだトイレ機器は、固定配線へ接続するための手段だけを備え

ていなければならない。

## 26 外部導体接続端子

外部導体接続端子は、JIS C 9335-1:2023 の箇条 26 による。

## 27 接地の手段

接地の手段は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 27 による。

### 27.1 追加（“適否は、目視検査”で始まる段落の前に、次を追加する。）

導電性のある液体を通して人体に接触する部分が、直接接地していない一層の絶縁からなる温水ヒータを組み込んだクラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器の場合、並びに裸の電熱素子をもつ温水ヒータを組み込んだクラス I トイレ機器の場合、水は、接地端子に恒久的かつ確実に接続された金属管を通じて出入りするか、又は同じように接地した金属部分の上を流れなければならない。

排せつ物と接触する可能性がある部分は、接触可能とみなされる。

**注記 101** そのような金属部の例には、グリッド又はリングがある。

通常使用において、金属部分に触れるおそれがない場合であって、かつ、15 mA 以下で動作する漏電遮断機能をもつ温水洗浄便座においては、基礎絶縁不良が生じた場合に充電部になるおそれがある可触金属部を接地しなくてもよい。

**注記 101A** 通常使用において、金属部分に触れるおそれがない場合の可触金属部の例には、給水接続部、給水配管及び給水ホースがある。

## 28 ねじ及び接続

ねじ及び接続は、JIS C 9335-1:2023 の箇条 28 による。

## 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁

空間距離、沿面距離及び固体絶縁は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 29 による。

### 29.2 追加（“適否は、測定によって”で始まる段落の前に、次を追加する。）

絶縁が、トイレ機器の通常使用中に汚染にさらされる可能性がないように、設置、ポッティングなどによって密閉されない場合には、マイクロ環境は、汚損度 3 とする。

### 30 耐熱性及び耐火性

耐熱性及び耐火性は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 30 による。

**30.2.2** この規格では、適用しない。

**30.2.3.1 追加**（“該当部分に対し” で始まる段落の後に、次を追加する。）

規定のグローワイヤ燃焼指数（GWFI）は、裸の電熱素子をもつ温水ヒータには適用しない。

注記 101A 22.33 の注記 101A と同じ。

**30.2.3.2 追加**（“非金属材料が” で始まる段落の前に、次を追加する。）

裸の電熱素子をもつ温水ヒータの場合、グローワイヤ試験は、“その他の部分” に規定する条件で行う。

注記 101A 22.33 の注記 101A と同じ。

#### 追加

**30.101** 水洗式便器を除き、便器には、可燃物質を組み込んで서는ならない。

適否は、非金属物質に JIS C 9335-1:2023 の附属書 E のニードルフレイム試験を実施することによって判定する。

材料が JIS C 60695-11-10 に従って V-0 に分類された場合には、試験試料が関連部分より厚くないことを条件として、試験は行わない。

### 31 耐腐食性

耐腐食性は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の箇条 31 による。

**追加**（最終段落の後に、次を追加する。）

適否は、JIS C 60068-2-52:2000 に規定する塩水噴霧（サイクル）試験 Kb によって判定する。試験の厳しさは、厳しさ(2)を適用する。

塩水噴霧試験の前に、塗装した外郭を、ピンの先端部の角度が 40° の円すい（錐）形をした硬化鋼のピンを用いて引っかく。ピンの先端部の丸みは、半径 0.25 mm±0.02 mm とする。ピンの軸方向に作用する力が 10 N±0.5 N になるように力を加える。塗膜面に沿って速度約 20 mm/s でピンを引いて引っかききずを付ける。5 mm 以上の間隔で、縁から 5 mm 以上離して、5 本の引っかききずを付ける。

排せつ物と接触する金属部分は、塩水噴霧に確実にさらす。

塩水噴霧試験の後、劣化を起こしてはならない。塗膜は、破れたり金属面から浮いたりしてはならない。

トイレ機器に劣化のおそれがある場合、箇条 8 及び箇条 27 の全て又は一部によって判定する。

注記 101A （対応国際規格の注記の内容は、規定であることから、本文の“塩水噴霧試験の後”で始まる段落の前に移した。）

## 追加

**31.101** トイレ機器は、洗剤及び小水に対する耐性をもたなければならない。

適否は、次の試験によって判定する。ただし、この試験は、耐腐食性の塩水噴霧試験とは別試料で行ってもよい。

- ー コーティング及びポッティングをもたない、又はモールドしていないプリント基板をもつトイレ機器、コンポーネント若しくは部品に対して、別々に実施する。
- ー トイレ機器、コンポーネント又は部品は、室内気圧で、アンモニア雰囲気  $550 \text{ ppm} \pm 50 \text{ ppm}$  の中に 96 時間保持する。
- ー トイレ機器、コンポーネント又は部品は、室内気圧で、塩酸雰囲気  $5 \text{ ppm} \pm 2 \text{ ppm}$  の中に 96 時間保持する。

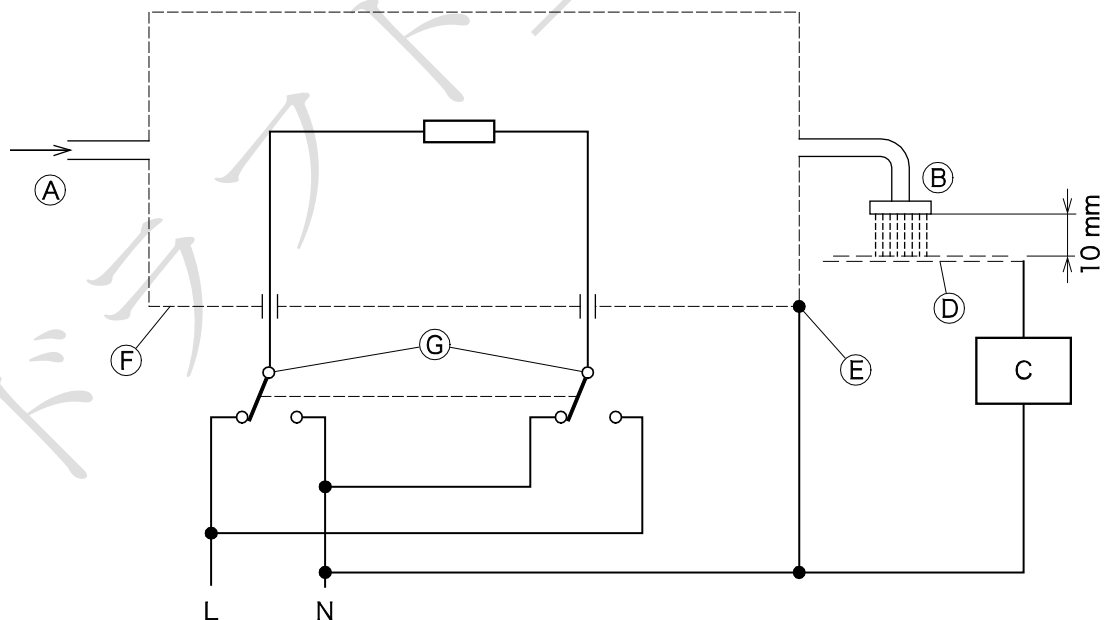
試験後、コンポーネント又は部品を組み込んだトイレ機器は、損傷が生じてはならない。

トイレ機器に損傷などのおそれがある場合、この規格、特に箇条 8 によって判定する。

## 32 放射、毒性及びこれらと類似の危険性

放射、毒性及びこれらと類似の危険性は、JIS C 9335-1:2023 の箇条 32 による。

追加（図 12 の後に、次の図を追加する。）



### 記号説明

- A : 注水管
- B : 散水端
- C : IEC 60990 の図 4 の回路

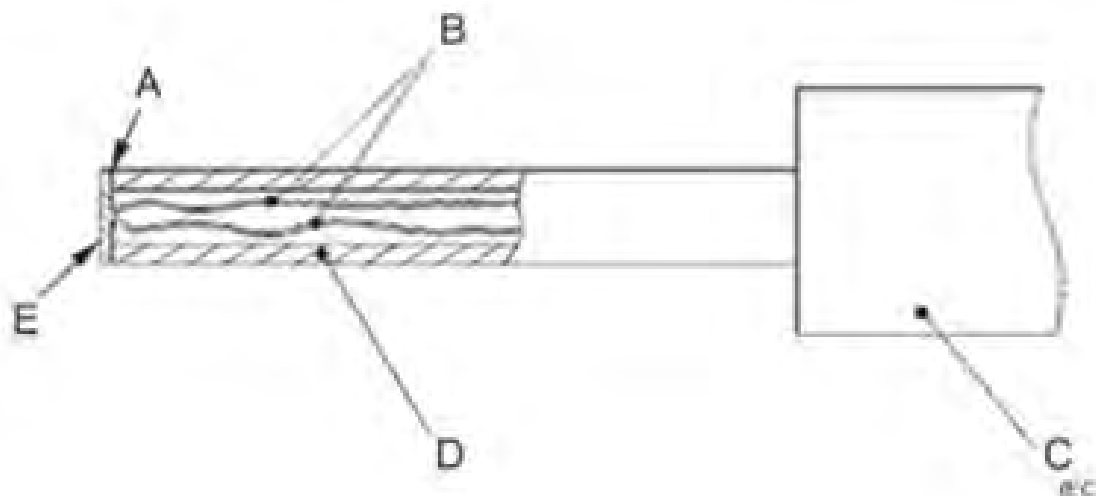
- D : 金属ふりい
- E : 接地端子
- F : 温水ヒータの本体
- G : 切替スイッチ

図 101—裸の電熱素子をもつ温水ヒータの漏えい電流測定のための図

図 101—裸の電熱素子をもつ温水ヒータの漏えい電流測定のための図

2025/7/10





#### 記号説明

A : 接着剤

B : JIS C 1602 の種類 K に従う、直径 0.3 mm の熱電対

C : ハンドルは、接触圧力が  $4\text{ N} \pm 0.1\text{ N}$  となるように調節する。

D : ポリカーボネート管 : 内径 3 mm, 外径 5 mm

E : すずめつき銅円盤 : 直径 5 mm, 厚さ 0.5 mm, 平らな接触面

図 102 — 表面温度測定用プローブ

## 附属書

附属書は、次を除き、JIS C 9335-1:2023 の附属書による。

### 附属書 B (規定)

#### バッテリー駆動機器並びにバッテリー駆動機器に用いる 分離接続形バッテリー及び着脱充電式バッテリー

**B.22.3 追加** (“検査プローブ 18 による試験中”で始まる段落の後に、次を追加する。)

JIS C 0922 の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用する。

### 附属書 R (規定) ソフトウェア評価

**R.2.2.5 置換** (“表 R.1 又は表 R.2 に規定する”で始まる段落を、次に置き換える。)

表 R.1 に規定する、故障／エラー状態を制御するための手段を含むソフトウェアを必要とする機能を備えたプログラマブル電子回路については、箇条 19 又は 22.105 への適合性が損なわれる前に故障／エラーを検知しなければならない。

**R.2.2.9 置換** (“ソフトウェア及びその制御下”で始まる段落の第 1 文を、次に置き換える。)

ソフトウェア及びその制御下にある安全に関連するハードウェアは、箇条 19 又は 22.105 への適合が損なわれる前に初期化し、かつ、切り離しておかなければならない。

## 参考文献

参考文献は、JIS C 9335-1:2023 の参考文献による。

**附属書 JAA**  
(参考)  
**JIS と対応国際規格との対比表**

JIS C 9335-2-84		IEC 60335-2-84:2019, (MOD)		
a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
1	1	変更	適用範囲を，“人体の部分的な洗浄若しくは乾燥を行うことによって又は排せつ物を衛生的に処理することによって，トイレの使用に快適感又は清潔感を与えることを目的としたトイレ機器の安全性について規定する。”とし，“トイレ機器”，“機器”，“電気装置”，“電気トイレ”の用語を“トイレ機器”に統一した。また，“トイレ”の文言は“トイレ機器”，“便器”などの用語によって明確化した。 また，対応国際規格の NOTE 101 及び NOTE 102 を合体させ一つにした。	温水洗浄便座等は，単に人体の部分的な洗浄又は乾燥を行うだけでなく，排せつ物を衛生的に処理することによって使用者に快適感又は清潔感を与えることが目的のトイレ機器であることを明確化にただけのため，IEC への提案は行わない。
2	2	追加	クラス 0I のトイレ機器に使用するサージ保護装置に用いるバリスタの部品規格（JIS C 5381-331，及び IEC 61051-2）を引用した。	我が国の事情のため，IEC への提案は行わない。
3	—	追加	安全性向上のため，2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし，JIS C 9335-1:2023 の 3.6.7～3.6.12 を引用することによって，機器の部分に関する定義を規定した。	現在，IEC において追加が検討されている。
3.1.9	3.1.9	追加	連続運転を意図するものの状態を明確にするため，本文に詳しくまとめて追加した。 また，規定文だけでは分かりにくいいため，表にまとめて追加した。	IEC への提案を検討する。
		追加	入力試験において最もリスクが高い機器条件になっていないことから，消費電力が最大となる条件を追加するとともに，その事例を注記に追加した。	IEC への提案を検討する。
3.5.105A	—	追加	対応国際規格では，22.101 においてトイレ機器は固定形だけを認めている。しかし，我が国では介護用トイレが販売されておりトイレ機器自体を動かせるものがあるため，介護用トイレの定義を追加した。	IEC への提案を検討する。
3.5.105B	—	追加	適用範囲の内容に合わせ，我が国で主流の電気製品である暖房便座を定義に追加した。	IEC への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
5.2	5.2	削除	試験時間を要する 31.101 は、他の項目と同じ試料で実施するのは不合理であることから、この規格では、対応国際規格の規定を適用せず、JIS C 9335-1:2023 の 5.2 を適用することとした。	IEC への提案を検討する。
5.3	5.3	削除	他の項目とは、別試料で実施することにしたため、この規格では、対応国際規格の規定を適用せず、JIS C 9335-1:2023 の 5.3 を適用することとした。	IEC への提案を検討する。
6.1	6.1	追加	クラス OI トイレ機器の追加は、我が国の配電事情によるが、裸の電熱素子をもつものは、感電の危険を考慮し、対応国際規格のとおりとしたことから、裸の電熱素子をもつものの以外は、クラス OI トイレ機器を認めた。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
6.2	6.2	追加	我が国では浴室とトイレ機器とが一緒になっている家庭は少ないので、清掃時などにおいてトイレ機器の下からの水のはね返りの可能性が少ない。このため、浴室以外の箇所に設置されるトイレ機器については、IPX4 以上ではなく、上からの注水試験 (IPX3) を適用することにした。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
7	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 7.1 を引用することによって、使用者が接触可能な機器用アウトレット及びコンセントに対して、表示について規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 7.1 を引用することによって、機能接地部分を組み込んだ機器に対して、表示に関する規定を明確化した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 7.12.9 を引用することによって、規格で要求する取扱説明書の表示に関して、提供方法を明確にして規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 7.14 を引用することによって、規格で要求する表示の文字高さ、及び成形、彫刻又は刻印の高さ又は深さを規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
7.12	7.12	追加	温水洗浄便座及び暖房便座は、幼児又は病弱者でも使用するものであるが、幼児又は病弱者が引き起こす可能性がある危険の全てを想定することは難しいため、幼児又は病弱者が温水洗浄便座及び暖房便座を使用するときは、監視者の必要性を取扱説明書に記載することとした。	IEC への提案を検討する。
7.12	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 を引用することによって、機能接地部分を組み込んだ機器に対して、表示に関する規定を明確化した。	現在、IEC において追加が検討されている。
7.12.1	7.12.1	変更	クラス 0I 機器は接地接続されることを意図しており、ユーザー施工向けの商品において、トイレ機器は、接地されない場合、感電の危険があるため、接地接続を必ず行わなければならない旨、設置説明書及び／又は取扱説明書に記載する規定に変更した。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
		追加	プラグ付きクラス I トイレ機器は、プラグの刃で自動的に接地できるため、この注記文の記載は不要である。6.2 で規定した IPX3 レベルのトイレ機器に対する注意文として追加した。設置説明書に記載する接地接続の注意文の記載要求事項は、クラス 0I トイレ機器及び固定配線に恒久的に接続することを意図したクラス I トイレ機器に限定した。 浴室での使用を意図していないトイレ機器について、浴室での使用禁止文の記載要求を追加した。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
7.15	7.15	追加	大部分の温水洗浄便座及び暖房便座の蓋は、取り外しできる構造ではあるが、機能部品の一部であり取り外しての使用は意図していないため、温水洗浄便座及び暖房便座の主要部を明確化した。	IEC への提案を検討する。
7.101A	—	追加	温水洗浄便座の安全性を向上させるため、電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の別表第八の基準のうち、国際規格に規定がない、人が触れるおそれがあり 600 V 超の部分がある場合の注意表示について追加した。	IEC への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
8.1.1	—	追加	一般公開されていないエリアに設置することを意図した業務用の機器を除き、充電部及び危険な運動部への接触の確認に、JIS C 0922 の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用することを規定した。	IEC への提案を検討する。
8.2	—	追加	一般公開されていないエリアに設置することを意図した業務用の機器を除き、充電部及び危険な運動部への接触の確認に、JIS C 0922 の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用することを規定した。	IEC への提案を検討する。
10	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 10.1 を引用することによって、使用者が接触可能な機器用アウトレット及びコンセントに対して、入力測定時の取扱いについて規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 10.1 を引用することによって、入力が動作中に変化する機器の最大入力値の測定に関する要求事項を明確にした。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 10.2 を引用することによって、使用者が接触可能な機器用アウトレット及びコンセントに対して、電流測定時の取扱いについて規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 10.2 を引用することによって、電流が動作中に変化する機器の、最大電流値の測定に関する要求事項を明確にした。	現在、IEC において追加が検討されている。
11	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 11.7 を引用することによって、使用者が接触可能な機器用アウトレット及びコンセントに対して、温度上昇測定時の取扱いについて規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
11.3	—	追加	表面温度を測定するためのプローブを規定した。	IEC への提案を検討する。
11.3 図 102	—	追加	表面温度を測定するためのプローブの図を追加した。	IEC への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
11.7	11.7	追加	3.1.9 で動作時間について規定しているため、JIS ではサイクル数を規定した。	IEC への提案を検討する。
11.8	11.8	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 を引用することによって、コーティングした金属製のハンドル、ノブ、グリップなどの最大温度上昇値を規定した (JIS C 9335-1:2023 表 3 参照)。	現在、IEC において追加が検討されている。
11.8 表 101	—	追加	IEC Guide 117 によって接触時間が約 10 分以降では“材料による温度差はなくなる”となっているため、対応国際規格では、23 K に温度上昇値が統一されている。しかし、温度制御されているトイレ機器の場合、上昇値 (K) では周囲温度によってやけど防止温度 (絶対値) が変動する問題があるため、上限値 (°C) は、温度制御されている温水洗浄便座及び暖房便座の温度上限値 (°C) を適用し、周囲温度 25 °C を基準に上昇値 (K) を加えて算出した。 同様に、乾燥のために暖気が提供される温水洗浄便座及び暖房便座の温風の温度上限値 (°C) を適用し、注記を追加した。	IEC への提案を検討する。
11.8 表 101	—	追加	正常運転条件下での指定された外部表面の最大温度上昇は、通則の表 3 との整合性を図るよう、注記を追加した。	IEC への提案を検討する。
12	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 を引用することによって、金属イオン系バッテリーに対する要求事項を規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
13.2	13.2	追加	対応国際規格では、裸の電熱素子だけを考慮しているが、我が国の温水洗浄便座の温水ヒータは裸ではなく、導電性のある液体を通して人体に接触する部分が一層の絶縁からなるので、裸電熱素子とは区別した。ただし、漏えい電流に関する試験は、その絶縁は直接接地されていない温水ヒータを組み込んだクラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器は、裸の電熱素子と同レベルの漏えい電流試験を実施することにした。また、通常の温水洗浄便座は、説明書に水の抵抗率は記載しない (しても意味がない。) ので、試験用の水の抵抗率を追加した。	IEC への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
15	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 15.1 を引用することによって、自動コードリールをもつ機器及びコンセントに差し込むための一体形のピンをもつ機器について、耐湿性の試験条件を明確にした。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 15.2 を引用することによって、通常使用時の液体のこぼれを模擬する試験に、リンス剤を含有させた水溶液を用いて判定することを規定した。	
15.3	—	追加	温水洗浄便座の安全性を向上させるため、7.101A の表示がない場合のモールディング及びポッティングについて、16.3 の試験を実施することとした。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
16.2	16.2	追加	導電性のある液体を通して人体に接触する部分が一層の絶縁からなり、その絶縁は直接接地されていない温水ヒータを組み込んだクラス 0I トイレ機器及びクラス I トイレ機器は、裸の電熱素子と同レベルの漏えい電流試験を実施することにした。	13.2 と同じ。
19	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 19.13 を引用することによって、異常下の動作における、接触可能な安全特別低電圧のアウトレット、コネクタ、又はユニバーサルシリアルバス (USB) アウトレットの出力電圧の制限を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 19.15 を引用することによって、我が国の電源事情を考慮した、定格周波数を手動で切り換えるスイッチを内蔵した機器について、主電源電圧切換スイッチを内蔵した機器と同様の異常試験を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 19.17 を引用することによって、金属イオン系バッテリーに対する要求事項（セルの電圧は、充電システムがバッテリーの再充電を恒久的に無効にしない限り、上限充電電圧を超えてはならないこと）を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。



a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
19.13	19.13	追加	温度制御されている温水洗浄便座及び暖房便座の場合、上昇値 (K) では周囲温度によってやけど防止温度 (絶対値) が変動する問題があるため、上限値 (°C) は、温度制御されている温水洗浄便座及び暖房便座の温度上限値 (°C) を適用し、周囲温度 25 °C を基準に上昇値 (K) を加えて算出した。	IEC への提案を検討する。
20.1	20.1	追加	介護用トイレは固定形ではないため、安定性に関する安全を考慮して、介護用トイレの安定性試験を追加した。	IEC への提案を検討する。
20.2	—	追加	一般公開されていないエリアに設置することを意図した業務用の機器を除き、充電部及び危険な運動部への接触の確認に、JIS C 0922 の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用することを規定した。	IEC への提案を検討する。
21	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 21.3 を引用することによって、プラグの部分が回転する、コンセントに差し込むためのピンをもつ機器のプラグ部分に対する機械的強度試験を規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
22	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 22.6 を引用することによって、電子回路の動作によって、機能接地部分を組み込んだ機器に対して、構造について規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 22.5 を引用することによって、電子回路の動作によって、差込プラグのピン相互間の電圧を抑制する場合の要求事項を規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 22.12 を引用することによって、ハンドル、ノブ、グリップ、レバーなどの緩みによって生じる危険に、窒息による危険を追加し、図 13 に飲込み判定ゲージを規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 22.53 を引用することによって、機能接地部分を組み込んだ機器に対して、表示及び構造に関する規定を明確化した。	現在、IEC において追加が検討されている。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
22	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.54 を引用することによって、, ボタン電池及び R1 電池は、通常、工具を用いることなく接触可能であってはならない旨を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.55 を引用することによって、機器の意図する機能の停止操作に対するフィードバックを規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.56 を引用することによって、着脱可能な電源部分は、機器のクラス III 構造の部分とともに供給しなければならない旨を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.57 を引用することによって、機器内の UV-C 放射によって非金属材料が、規格に適合しなくなるような劣化を生じてはならない旨を規定し、附属書 T に試験を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.58 を引用することによって、 <b>JIS C 8283-3</b> などのスタンダードシートに適合するものを除き、機器用インレットによって主電源接続する機器は、接続に適したコードセット又はコネクタを附属させる旨を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.59 を引用することによって、保護特別低電圧回路に関する要求事項を明確化した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.60 を引用することによって、機能接地部分を組み込んだ機器に対して、表示及び構造に関する規定を明確化した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
22	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.61 を引用することによって、使用者が接触可能な機器用アウトレット及びコンセントに対して、過電流保護について規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 22.62 を引用することによって、公衆のネットワークを介した遠隔通信が規格への適合に影響しないことを規定し、認可されていないアクセス及び通信異常の影響を回避するための対策を附属書 U に規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
22.2	22.2	追加	クラス <b>OI</b> トイレ機器もクラス <b>I</b> トイレ機器と同様に、機器用インレットを設けてはならないことを追加した。	我が国の事情のため、 <b>IEC</b> への提案は行わない。
22.6	—	追加	必要な排水孔の直径及び／又は面積について規定した。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
22.21	22.21	追加	温水洗浄便座の安全性を向上させるため、電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の別表第八の基準のうち、国際規格に規定がないパラフィンについて記述を追加した。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
22.33	22.33	追加	この規格がカバーする排せつ物処理装置などに裸の電熱素子をもつ場合、感電の危険はそれほどないと考えられるが、温水洗浄便座については、水に人が触れて使用するものなので、裸の電熱素子をもつべきでないため、温水洗浄便座については、裸の電熱素子をもってはならないこととした。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
22.40	22.40	追加	遠隔操作に対する本規格の対象となる各トイレ機器へのリスクを明確にした。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
—	22.48	削除	我が国の水道法の適用と矛盾がないように、水道法と重複する可能性がある規定を削除した。	我が国の事情のため、 <b>IEC</b> への提案は行わない。
22.49	22.49	追加	遠隔操作に対する本規格の対象となる各トイレ機器へのリスクを明確にした。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
22.51	22.51	追加	遠隔操作に対する本規格の対象となる各トイレ機器へのリスクを明確にした。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
22.52A	—	追加	接地線付クラス 0I 機器のトイレ機器で、接地端子に接続した電源電線と同等以上の長さの接地線を備え、かつ、取扱説明書に接地接続の指示があるものは、専門業者が設置することを意図するトイレ機器と、同等レベルとし、箇条 22（構造）に追加した。また、温水洗浄便座の安全性をより向上させるため、サージ保護装置の要求事項を追加した。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
22.101	22.101	追加	我が国では介護用トイレが販売されておりトイレ機器自体を動かせるものがあるため、介護用トイレは、固定形でなくてもよいことにした。	IEC への提案を検討する。
22.102	22.102	追加	対応国際規格では、通常使用において、皮膚と接触し体を支える金属部分を接地する場合、固定配線に恒久的に接続されているトイレ機器だけ規定されているが、プラグをもつトイレ機器が皮膚と接触し体を支える金属部分を接地する場合は、次の二つの条件を規格に追加した。 — 15 mA 以下で動作する漏電遮断機能をもつ — 皮膚と接触し体を支える金属部分の基礎絶縁が破壊された場合、漏れ電流が 0.5 mA 以下で自動的に電源を遮断する。	我が国の事情のため、IEC への提案は行わない。
22.104A	—	追加	温水洗浄便座の安全性を向上させるため、絶縁物が高温部に接触する状態を、より詳細に分類して、それぞれの状態について温度限度値を明確に規定した。	IEC への提案を検討する。
22.104B	—	追加	温水洗浄便座の安全性を向上させるため、赤外線リモコンをもつ温水洗浄便座について、我が国で普及した誤動作試験方法を追加した。	IEC への提案を検討する。
23.5	23.5	追加	排せつ物タンクの部品がどのようなトイレ機器の部品かを明確にするため、対象とするトイレ機器を追加した。	IEC への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
24	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 24.1.10 を引用することによって、機器の紫外放射傷害（ES）及び近紫外放射傷害（EUVA）に関して、 <b>JIS C 7550</b> の免除グループに適合することを規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 24.1.11 を引用することによって、機器に附属するコードセットの関連規格として、 <b>JIS C 8286</b> を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
24.101	24.101	追加	この規格は、通常運転の温度限度値を規定しているのではなく、異常運転の温度限度値を規定している。温水洗浄便座は、箇条 11 の通常運転と箇条 19 の異常運転との温度差が小さいため、通常運転で動作せず異常運転で動作する非自己復帰形温度過昇防止装置をトイレ機器に取り付けるのは困難であることから、この項は、排せつ物を蓄積（貯蔵）するトイレ機器に限定して適用とした。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
24.1	24.1	追加	部品規格で安全を担保されているため、漏電保護プラグの条件を追加した。	我が国の事情のため、 <b>IEC</b> への提案は行わない。
25	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023</b> の 25.7 を引用することによって、電源コードのタイプとして、ハロゲンフリー、低発煙、熱可塑性絶縁及び被覆コードを追加して規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
27.1	27.1	追加	導電性のある液体を通して人体に接触する部分が一層の絶縁からなり、その絶縁は直接接地されていない温水ヒータを組み込んだクラス <b>OI</b> トイレ機器及びクラス <b>I</b> トイレ機器は、裸の電熱素子と同レベルの接地接続を実施することにした。	我が国の事情のため、 <b>IEC</b> への提案は行わない。
27.1	27.1	追加	通常使用において、触れるおそれがない金属部分に基礎絶縁不良が生じた場合に充電部になるおそれがある温水洗浄便座に対して、漏電遮断器による感電の防止策として、 <b>15 mA</b> 以下で動作する漏電遮断機能を規格に追加した。また、接地しなくてもよい可触金属部の例として、通常使用者が操作時に触れることのない給水接続部、給水配管及び給水ホースを挙げた。	我が国の事情のため、 <b>IEC</b> への提案は行わない。
29.2	29.2	追加	密閉という状態を具体的に想定できるよう“ポッティングなど”を追加した。	<b>IEC</b> への提案を検討する。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
30.101	30.101	追加	たばこの火つけが懸念される便器に限定するため、7.101 にもあるように、水洗式便器は該当しないことから、水洗式便器の除外記載を追加した。	IEC への提案を検討する。
31.101	31.101	追加	5.2 にて試料を別にする旨を追加したため、ここで規定する試験について、別試料で行ってもよい旨を追加した。	IEC への提案を検討する。
		追加	試験装置内にトイレ機器をそのまま入れることが困難なケースがあるため、試験の実施については、試料を分解して実施してよい旨を追加した。	IEC への提案を検討する。
		追加	洗剤及び小水の試験には、箇条 8 の要求は必須であるため、この試験後の判定基準として、箇条 8 は必須であることを明確化した。	IEC への提案を検討する。
32	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の 32.2 を引用することによって、機器の紫外放射傷害（ES）及び近紫外放射傷害（EUVA）に関して、JIS C 7550 の免除グループに適合することを規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
附属書	—	追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の附属書 S 10.1～10.2 を引用することによって、10.1 及び 10.2 の要求事項に基づく代表的な期間における入力及び電流の測定に関するこの規格の適用指針を記載した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の附属書 T を引用することによって、機器内の UV-C 放射によって非金属材料が、規格に適合しなくなるような劣化を生じてはならない旨、及び試験を規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された IEC 60335-1 を先取りし、JIS C 9335-1:2023 の附属書 U を引用することによって、公衆のネットワークを介した遠隔通信が規格への適合に影響しないこと、及び認可されていないアクセス及び通信異常の影響を回避するための対策を規定した。	現在、IEC において追加が検討されている。

a) JIS の箇条番号	b) 対応国際規格の対応する箇条番号	c) 箇条ごとの評価	d) JIS と対応国際規格との技術的差異の内容及び理由	e) JIS と対応国際規格との技術的差異に対する今後の対策
附属書	—	変更	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023 の附属書 B</b> を引用することによって、バッテリー駆動機器に対する規定を全面的に改正し、遠隔操作装置（リモートコントローラ）、着脱充電式バッテリー及び分離接続形バッテリーにも適用することとした。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
		追加	安全性向上のため、2020 年に第 6 版として発行された <b>IEC 60335-1</b> を先取りし、 <b>JIS C 9335-1:2023 の附属書 R R.3.4</b> を引用することによって、ソフトウェアの管理項目を規定した。	現在、 <b>IEC</b> において追加が検討されている。
附属書 B B.22.3	—	追加	一般公開されていないエリアに設置することを意図した業務用の機器を除き、充電部及び危険な運動部への接触の確認に、 <b>JIS C 0922</b> の検査プローブ 18 を適用した箇所には、検査プローブ 19 も適用することを規定した。	<b>IEC</b> への提案を検討する。
<p><b>注記 1</b> 箇条ごとの評価欄の用語の意味を、次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 削除：対応国際規格の規定項目又は規定内容を削除している。</li> <li>— 追加：対応国際規格にない規定項目又は規定内容を追加している。</li> <li>— 変更：対応国際規格の規定内容又は構成を変更している。</li> </ul> <p><b>注記 2</b> <b>JIS</b> と対応国際規格との対応の程度の全体評価の記号の意味を、次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— MOD：対応国際規格を修正している。</li> </ul>				